

目次

- (1) 造成履歴
- (2) 液状化の状況
- (3) 液状化による公共施設被害の状況 (道路、水道)
- (4) 液状化による建物被害の状況
- (5) 地震動の特徴
- (6) 地盤状況

(1) 造成履歴

1) 旭地区

旭地区は、明治期から昭和 30 年代までは水田や針葉樹林が広範囲に広がっていた。昭和 40 年代以降、主に針葉樹林帯の宅地化が進み現在に至っていると思われる。また、明治期には砂浜であった海岸線が、現在では堤防になっており、砂浜を盛り立てた後に宅地化されている

2) 飯岡地区

飯岡地区も旭地区と同様に明治期から昭和 30 年代には水田や針葉樹林が広がっていた。昭和の初めまでに灌田沼が水田になり、昭和 30 年代には大利根用水も整備され、水田地帯が広がっていたが、昭和 40 年代以降、急速に宅地化が進んでいる。

3) 海上地区

海上地区は、明治期から昭和 30 年代には水田、湿地が広がっていた。これが昭和 40 年代以降宅地化が進み現在に至っている。

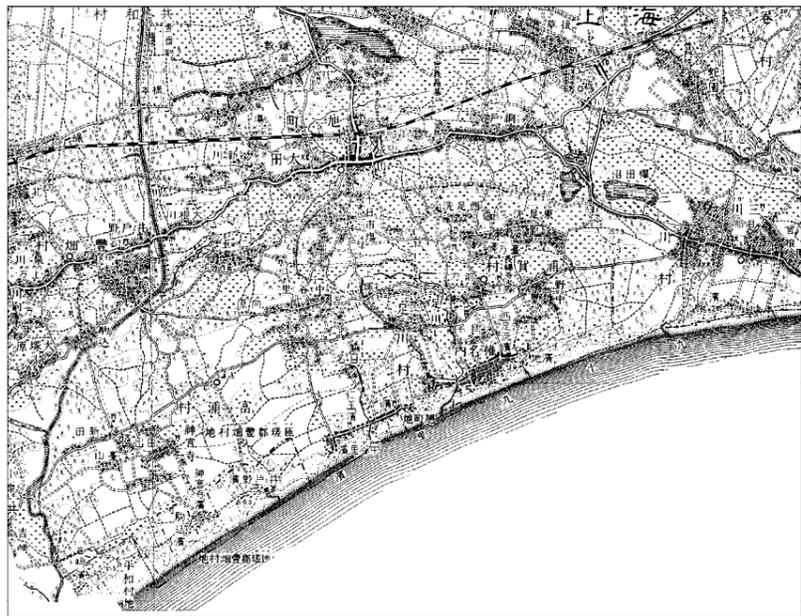
4) 干潟地区

干潟地区は、明治期から昭和 30 年代には水田、湿地が広がっていた。これが昭和 40 年代以降、特に丘陵地と水田の境界に位置する道路に沿って宅地化され、現在に至っている。

5) 砂鉄採掘地

砂鉄採取は海岸波打ち際で明治・大正・昭和 27 年頃まで続いた。その後、護岸堤防が建設されるようになると海岸道路北側の山林、畑で採取されるようになり、飯岡・三川から東足洗・西足洗・椎名内・足川・中谷里・蛇園などに鉱区が広がった。採掘は昭和 49 年頃まで続いた。採掘方法は強力なポンプで水を注入し泥水を吸い上げ、選鉱機にかけられて砂鉄と砂に分離された。採掘跡は砂鉄と砂を選別した際に余った砂で埋め戻しが行われたようである。

旭地区



1906年(明治39年)



1930年(昭和5年)



1959年(昭和34年)



1969年(昭和44年)



1998年(平成10年)

飯岡地区



1906年(明治39年)



1929年(昭和4年)



1959年(昭和34年)

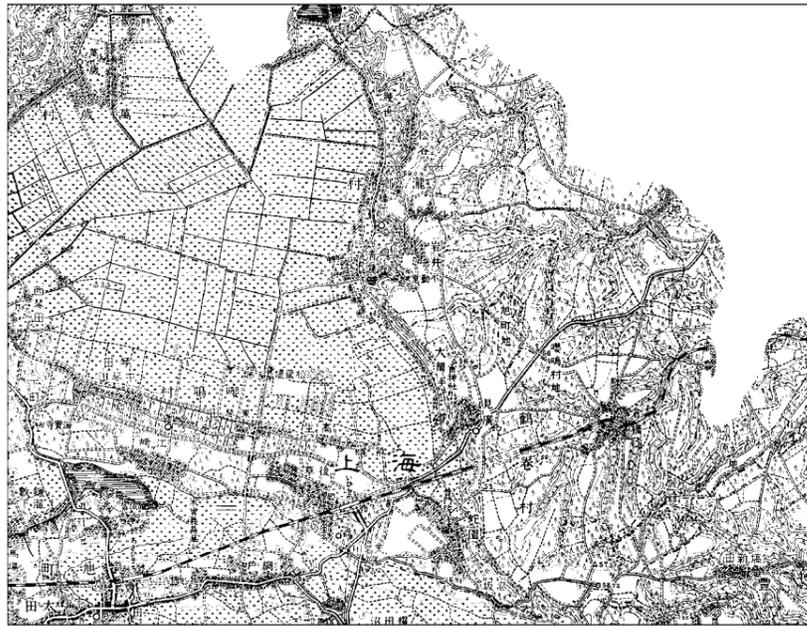


1969年(昭和44年)

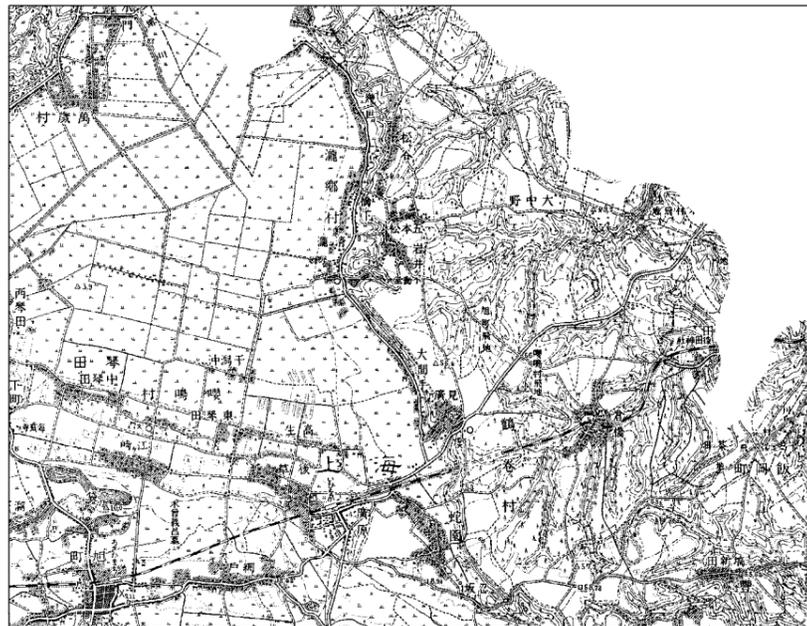


1998年(平成10年)

海上地区



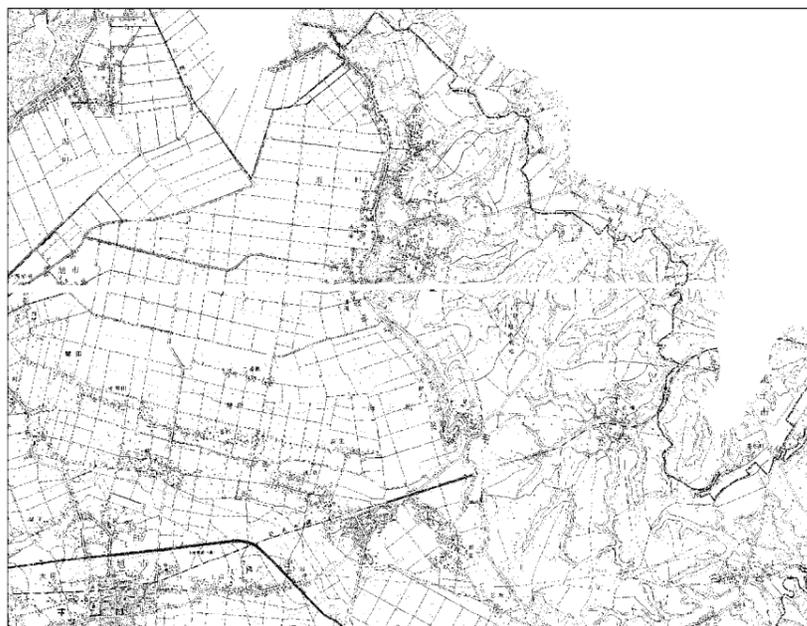
1906年(明治39年)



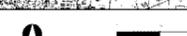
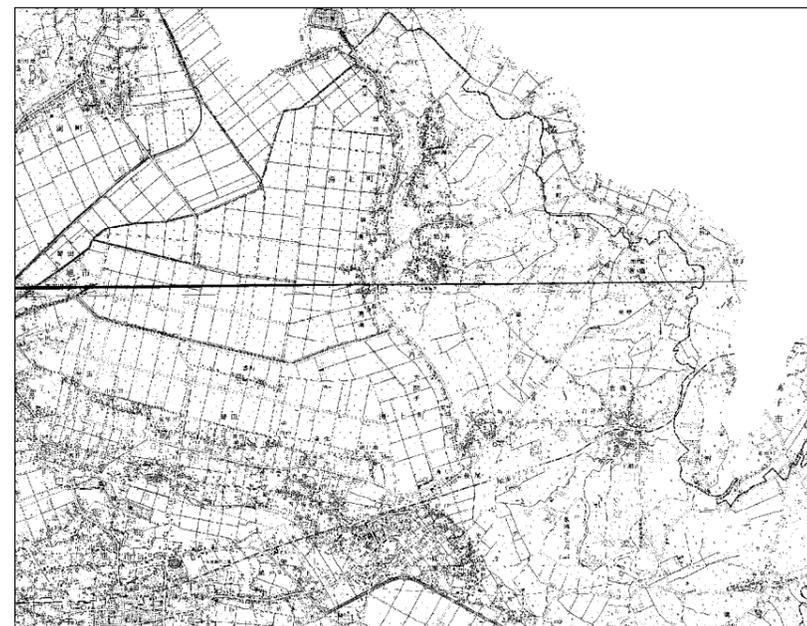
1930年(昭和5年)



1959年(昭和34年)

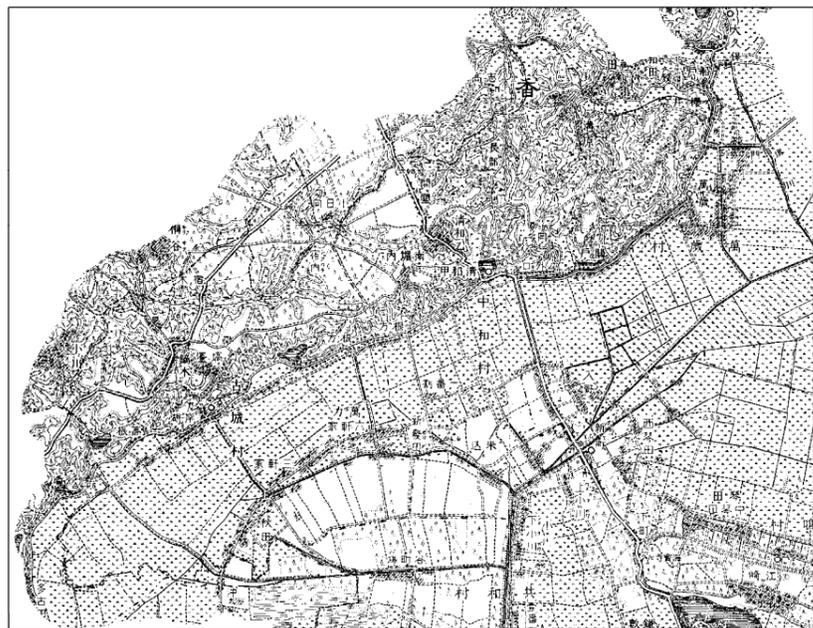


1969年(昭和44年)

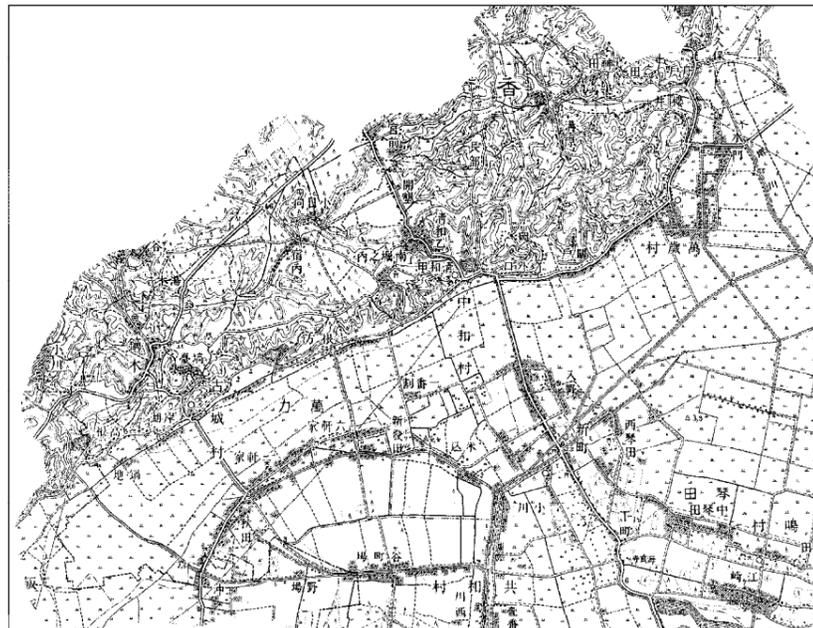


1998年(平成10年)

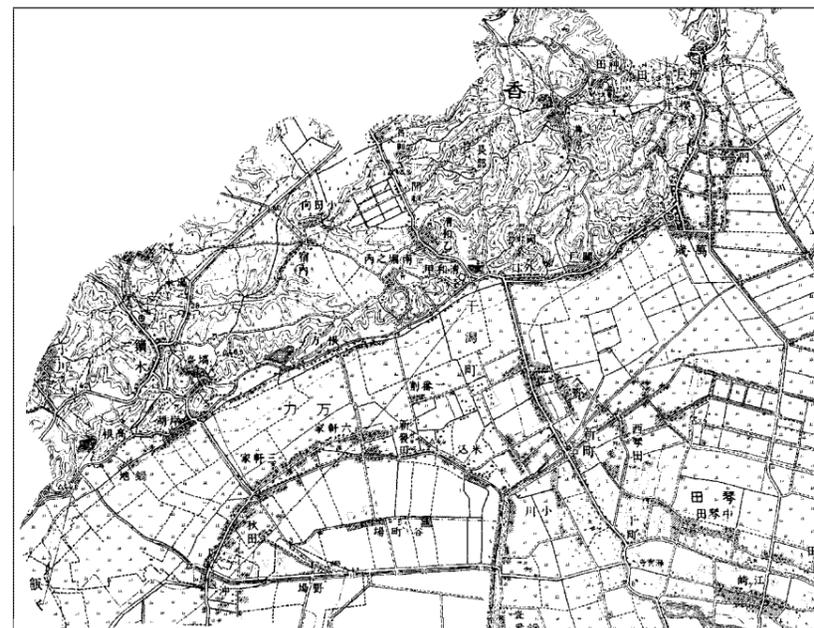
干潟地区



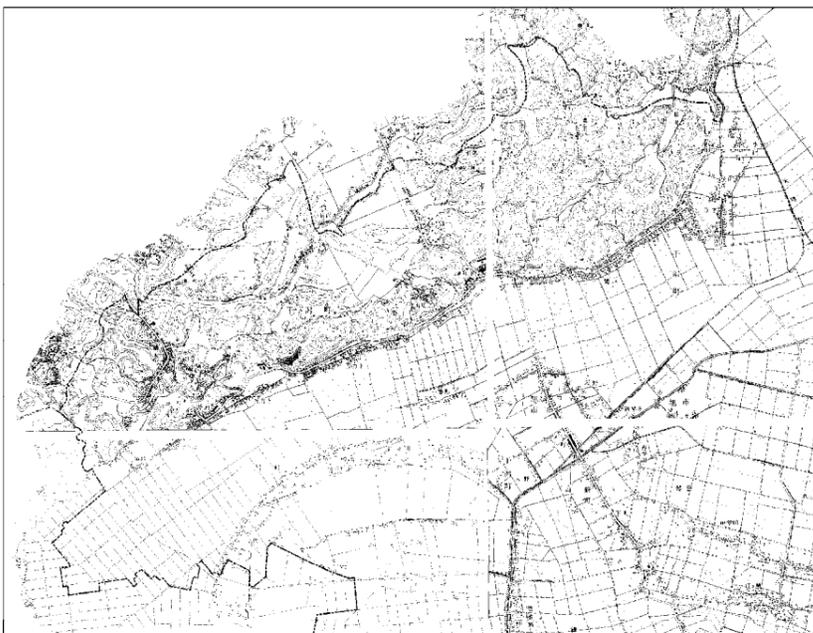
1906年(明治39年)



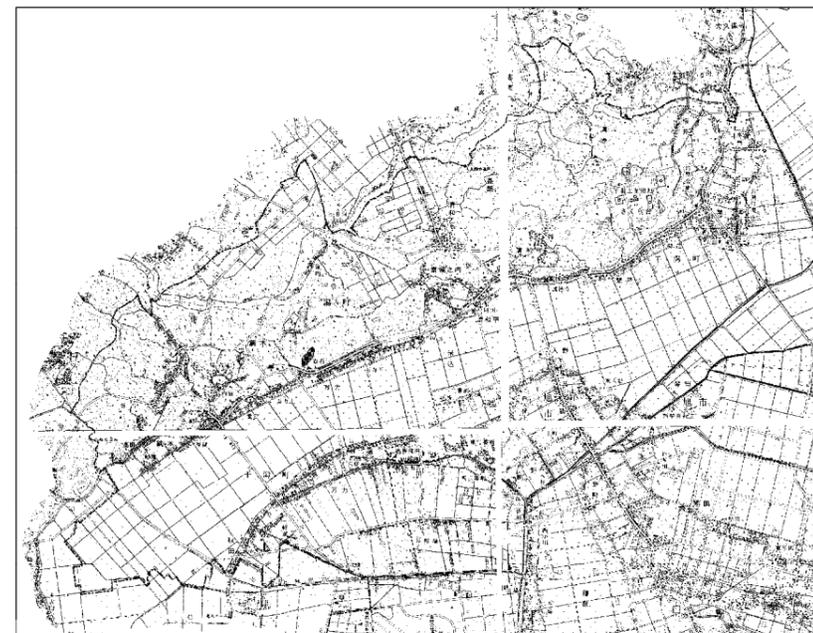
1929年(昭和4年)



1959年(昭和34年)



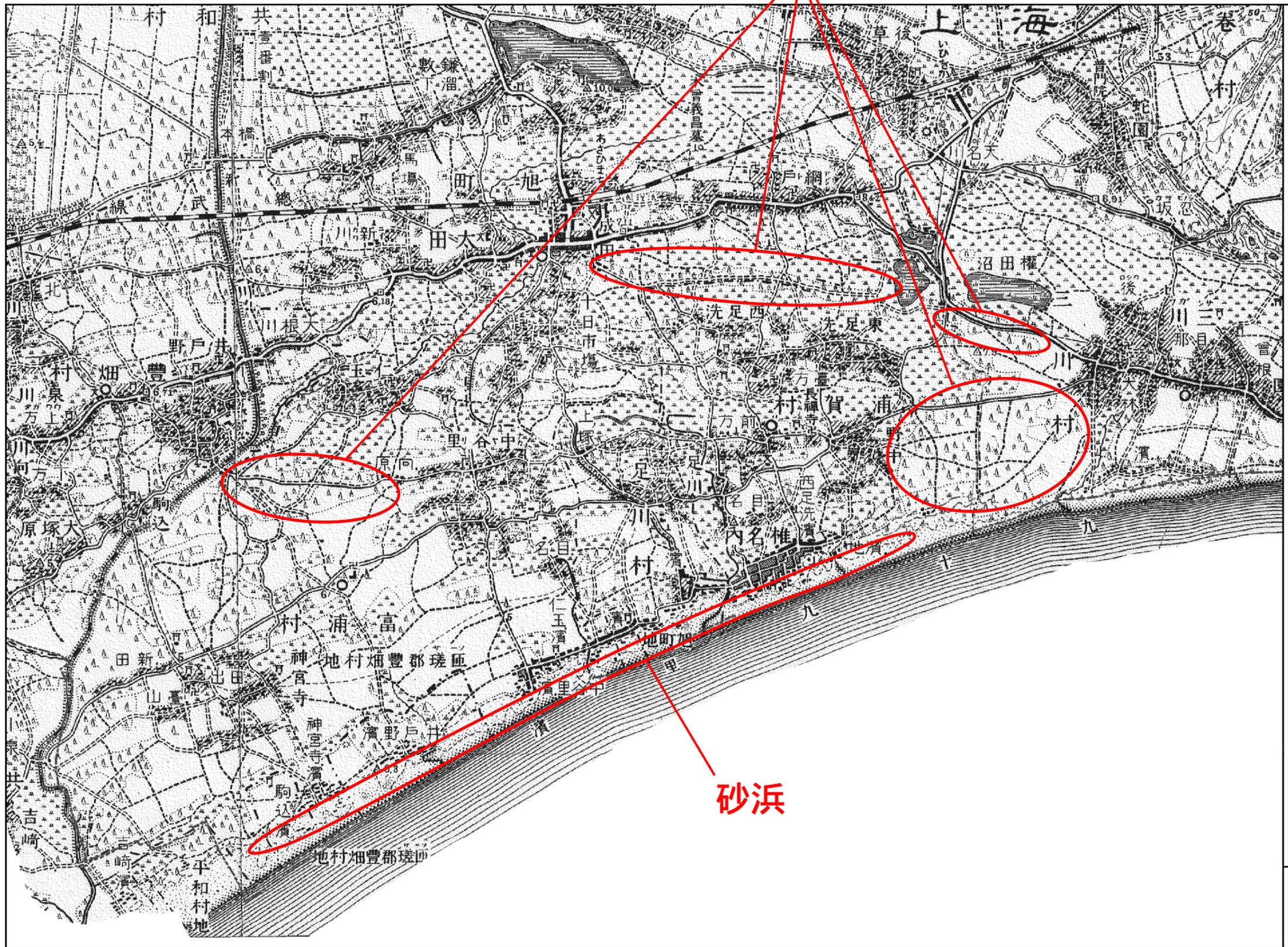
1965年(昭和40年)



1998年(平成10年)

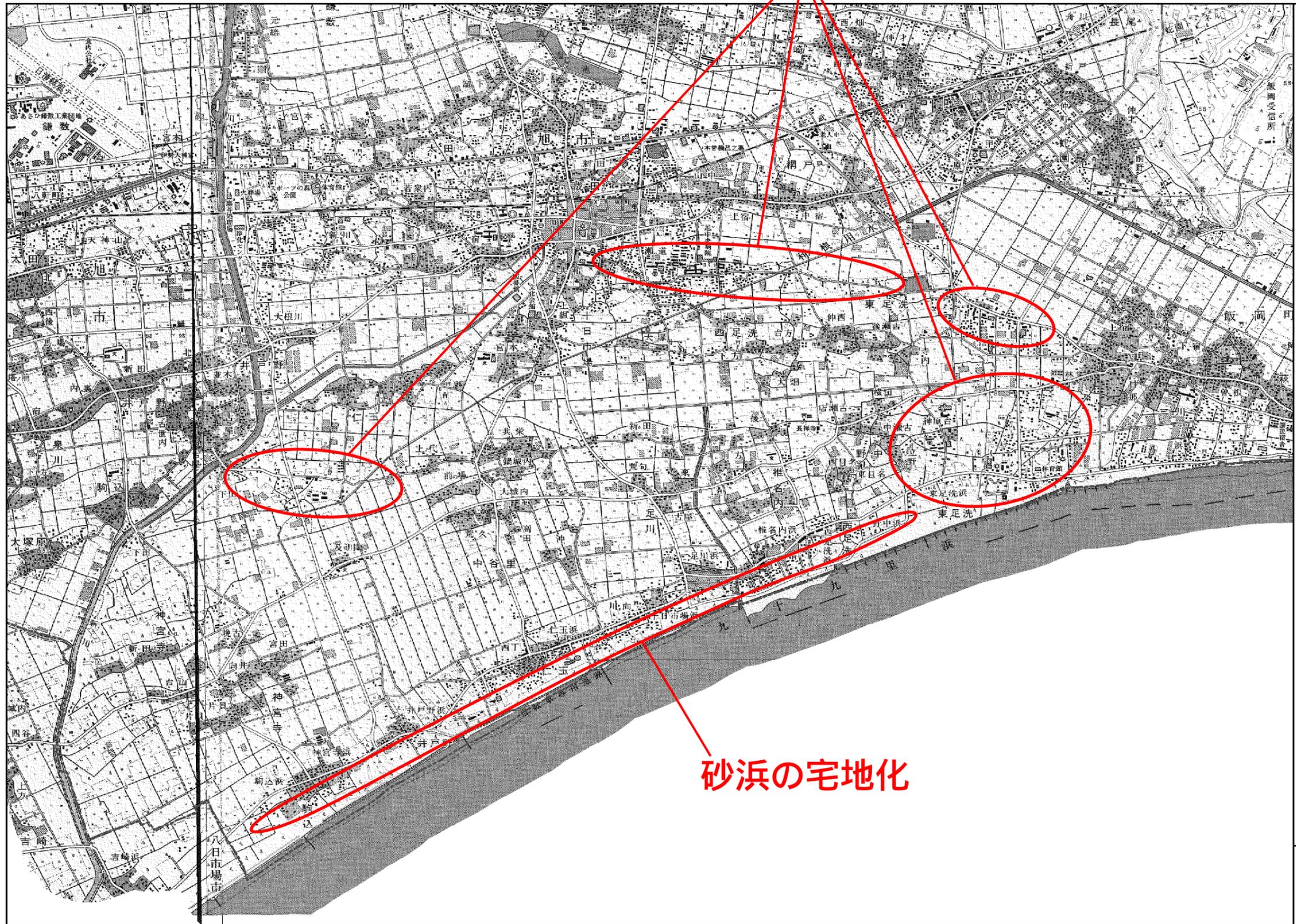
旭地区

針葉樹林



1906年(明治39年)

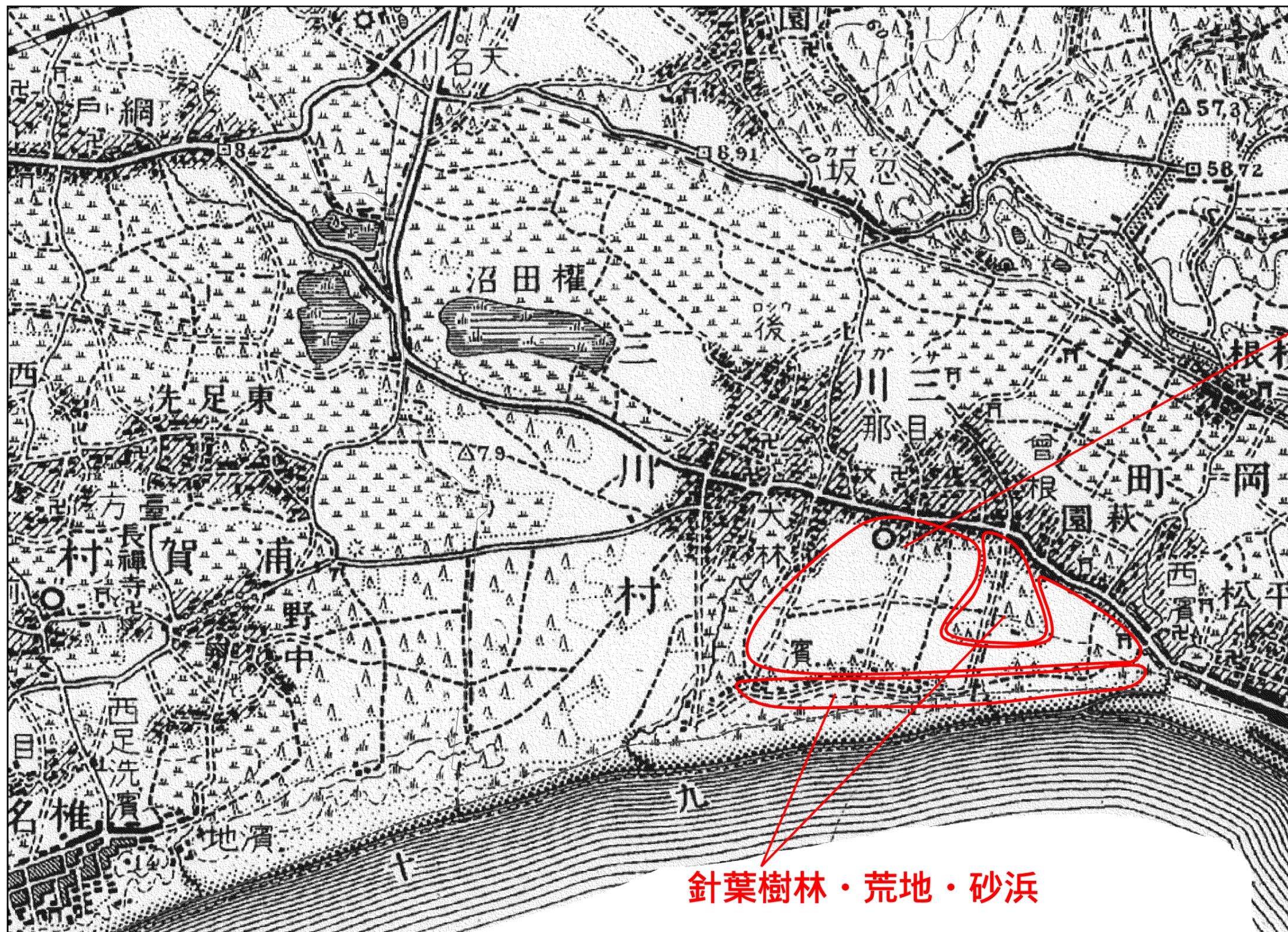
針葉樹林の宅地化



砂浜の宅地化



1998年(平成10年)



用途不明

針葉樹林・荒地・砂浜

1906年(明治39年)